

平成25年蔵王町議会定例会3月会議が開催されるにあたり、ご審議いただきます平成25年度蔵王町一般会計、及び各種特別会計の当初予算をはじめ、各議案の説明に先立ち、私の町政運営に対する基本的な考え方を申し述べ、議会の皆様方を始め、町民の皆様の方より一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

私は、昨年9月、3たび町長に当選させていただき、平成25年度当初予算を編成し、審議を賜る定例会3月会議を迎えることとなりました。

この様な時期に、改めて初心に帰り、町民の皆様方の負託に応えて、「住んでよかった」と思えるまちづくりへの決意を新たにしているところであります。

議会の皆様のご理解とご協力、そして温かいご

支援をいただき、町政が順調に執行されますことを切にお願いを申し上げる次第であります。

また、議会の皆様におかれましては何かと多忙な中、「議会報告会」などを通じて、町民の皆様の声を、議会運営や町政に反映すべく、日々努力されていることに対し、心より敬意を表するものであります。

私にとっても議会の皆様におかれましても、二元代表制のもと、町政を預かる者として、その責任の重大さを再認識しているところであります。

さて、平成20年度からスタートした「第四次蔵王町長期総合計画」は、折り返し地点を迎え、平成25年度から「後期基本計画」を実施していくこととなりますが、引き続き基本理念として掲げている「町民が主役、地域が主体のまちづくり」

を指すと共に、「東日本大震災」を教訓に、より一層、災害に強い「安心・安全なまちづくり」を目指すなど、社会情勢の変化等に対応した、新しい施策にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

次に、本町を取り巻く諸情勢について申し上げます。

昨年12月の政権交代により、国の政策は、見直しが行われ、平成25年度当初予算の成立時期が大幅に遅れるという状況にありますが、安倍内閣は、「日本経済再生に向けた緊急経済対策」に基づき「15か月予算」の考え方で、平成24年度の大型補正予算と、平成25年度予算を合わせ、景気の下支えを行いつつ、切れ目のない経済対策を実行することとしております。

また、本年1月28日に召集された第183回国会における安倍総理の所信表明においては、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」という「三本の矢」で、経済再生を推し進めるとする一方、中長期には、財政健全化に向けて「プライマリーバランスの黒字化」を目指すこととし、平成26年4月からの、消費税の引き上げ等を見据えた「経済対策」が本格化するのではないかと考えております。

こうした中、直近の日本経済の動向を見ると、政権交代後からの円安により、自動車産業など、輸出関連企業では、経営が持ち直しており、国の経済対策等による、景気回復への期待感も高まっている一方、地域経済では、円安に伴う原材料や原油価格の上昇などが、地元企業の負担になるなど、依然として、大変厳しい情勢が続いております。

建設業も、復興需要等により、受注額を伸ばしているものの、先行きの不透明感から、設備投資や経営規模の拡大などには、慎重な姿勢を崩しておらず、さらに、資材不足、人件費の上昇など、懸念材料を抱えている状況にあります。

こうした中、2010年国勢調査においては、国全体の人口は横ばいで推移する一方、65歳以上の人口が占める割合は、5年前に比べて2.8ポイント増の23%に達するなど、高齢化率は世界で最も高い水準となっており、医療・年金といった社会保障費に振り向ける予算は、年々増大しているところでもあります。

平成25年度の国家予算では、公債金（借金）が、税収を上回るという異常な状態は3年ぶりに回避したものの、公債依存度は歳入全体の46.3%と、高い割合を示したままであります。

国債残高は、平成25年度末で750兆円に達する見込みとなっており、国で支払う国債の利子は年間10兆円近くに達するような状況であることから、国では歳出削減に取り組まなければならない時が来るのではないかと考えております。

こうした状況で、今後とも町が自立して自らの道を切り開いていくためには、出来る限り歳出を削減し、歳入を確保しなければなりません。

かつての三位一体改革により、わが町を含めて小規模町村は、大きな打撃を受けたことを決して忘れてはならず、今後、地方交付税の減額が見込まれることから、町の財政運営は、引き続き厳しい状況にあると認識しているところであります。

わが町の経済状況においても、震災や福島原発事故に伴う風評被害などの影響が残っており、観

光客数の低迷、特に外国人観光客の大幅な減少、農産物や個人商店などにおける売り上げの伸び悩みなどにより、基幹産業の農業や観光等に大きな影響を与えております。

このような状況において、行政が取り組んでいくべき課題は山積していますが、「誰もが住んで良かった」と言えるような、安全と安心、そして心豊かに暮らせる、健全で活力ある地域社会を、町民の皆様と行政が一緒になって作っていく、「町民協働のまちづくり」をめざしていくことが私に課された「大きな使命」であると思っております。

今後も、福祉関係の扶助費や、国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険特別会計への繰出金など、社会保障費は、年々増加していくと考えております。

懸案であった仙南広域「仮称・仙南クリーンセンター」は、平成26年度から本格的な建設工事に着手する予定であり、建設に伴う特別負担金も発生してまいります。

町の施設も、小中学校をはじめ、昭和40年代から50年代に建設されたものが多く、耐震改修はすべて完了したものの、必要な予算措置を行い、しっかりとメンテナンスを行っていく必要があります。

また、蔵王病院・刈田総合病院の補助金・出資金などは、わが町の財政に少なからず影響を与えているところであります。

しかしながら、町民の安全・安心を守り、地域医療や二次医療・救急医療の中核的病院を維持し、存続させ守って行くことは重要なことと思つて



おります。

このような中、財政健全化を維持していくという事は、非常に重要なことでもあります。

少子高齢化社会における介護・疾病予防など福祉の増進や、生まれてくる子どもが少なくなって、将来の蔵王町が心配される中で、安心して子育ての出来る環境づくり、子ども達の安全の確保と子育て支援の充実を図って行くことは、最重要施策の一つと捉えています。

私の行政運営は、「第四次長期総合計画」の五つの基本方針、「心づくり」、「人づくり」、「環境づくり」、「活力づくり」、そして「絆づくり」をまちづくりの基本に、皆様と共に歩んでいこうと思っておりますので、どうか、町民の皆様並びに議会の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

次に、平成25年度の当初予算編成にあたり基本的な考え方を申し上げます。

平成25年度一般会計予算の総額は、前年度に比べて6.7%、3億8,000万円減の52億6,000万円としました。

平成24年度においては、約4億円の町債の繰上償還を実施しましたが、25年度は繰上償還を行う予定がないことや、被災住宅修繕費補助金が24年度で終了することが、減額となった主な理由であります。

なお、本年度も、主要事業を一覧表として添付させていただきましたので参考にして頂ければ幸いです。

次に、主な歳入について申し上げます。

まず、町税では、個人町民税は、納税者数の減少や所得の下落が予想されることから、前年度対比2.1%の減、逆に、法人町民税については、復興需要等を踏まえて、8.8%の増を見込んだところです。

町税全体の約3分の2を占める固定資産税については、新增築家屋の増などを見込んで、前年度対比1.3%の増を見込んだところであります。

町たばこ税については、25年度から実施される都道府県たばこ税から市町村たばこ税への税源移譲を踏まえ、前年度対比54.2%の大幅な増額を見込んだところであります。

地方譲与税については、低燃費車の普及等を考慮のうえ減額し、地方消費税交付金についても内

需の状況等から減額する一方、ゴルフ場利用税交付金については、24年度の実績を踏まえて増額し、その他の交付金については、前年度とほぼ同様な額を計上しました。

地方交付税につきましては、政府予算案では2.2%の減少となっていること、及び本町の町税収入を3.6%増と見込んでいることを考慮し、普通交付税は前年度より3,000万円の減とする一方、震災復興特別交付税について1,400万円を見込みました。

最後に、多様化し、増加する財政支出需要に対処するため、財政調整基金繰入金を前年度より、2,000万円増の1億7,000万円を取り崩したところであります。

次に、歳出予算における主な事業について、第四次蔵王町長期総合計画に掲げる「施策の大綱」ごとにご説明申し上げます。

健やかなまちづくり（保健・医療・福祉）  
～みんなが、心も体も健康になる～

まず、健やかなまちづくりに向けてであります。

少子高齢化が急速に進むわが国では、介護・疾病予防や福祉の増進、そして、子育てしやすい環境を整えていくことが急務となっております。

こうした中、「子育て支援の充実」に向けては、町独自の施策である「すこやか養育助成金」や「乳幼児紙おむつ券助成」を継続し、子どもの出生を祝うと共に、経済的支援に努めていきます。

子ども医療費助成制度については、昨年10月から、対象年齢を中学校卒業まで引き上げを行ったところであり、本年度から、1年を通じての必要額を予算に計上したところであります。

また、「あったか支援金」、「母子・父子家庭医療費助成制度」により、ひとり親世帯の経済的支援も継続していききたいと考えております。

保育サービスでは、多様化するニーズにこたえ、新年度は、障がい児を受け入れることとしております。

宮児童館においては、放課後児童クラブ室を増築し、放課後児童クラブ登録児童や、自由来館児童の受け入れ体制の強化を図り、児童の健全育成に努めていきます。

このほか、各種予防接種や健診のほか、町独自の施策では、受験を控えた中学3年生インフルエンザ予防接種を継続するなど、より子育てしやすい環境の整備に努めていきたいと考えております。

高齢者や障がい者福祉についても、新年度から、人工透析で通院している方への通院交通費補助をはじめなど、よりきめ細かに各種サービスの提供に努めていきたいと考えております。

次に、地域医療の充実に向けては、地域の医師会などと連携しながら、休日診療、救急診療の体制を維持すると共に、蔵王病院の体制強化を図り、必要な時に必要な治療を受けることができる医療体制を維持していきたいと考えております。

学び楽しむまちづくり (教育・文化・スポーツ)  
～みんなが、生き生きとなる～

次に、学び楽しむまちづくりに向けてであります。

いじめ、不登校、虐待といったことが大きな社会問題となる中、子どもたちが安心して学ぶことができる環境を整えることは、私たち大人の大切な役割であると考えております。

すべての児童生徒が、蔵王町の自然・文化・歴史に慣れ親しみ、創造性と人間性豊かな子どもに育つよう、スキー教室や樹氷観賞会などの体験学習教育を継続するほか、特色ある副読本を使った教育などを推進していきたいと考えております。

また、特別な支援を必要とする児童生徒一人ひ



とりのニーズに適切に対応するため、引き続き「特別教育支援員」9名を配置していきます。

更に、外国語指導助手による英語教育の充実や学び支援コーディネーター、学校支援員による課外授業、学校図書支援員による学校図書室の機能充実など、いろいろな機会をとらえて、児童生徒の学力向上に向けた支援を行っていきます。

学校の施設整備では、新年度は、遠刈田小学校プール改修、平沢小学校トイレ改修、円田小学校屋上防水改修を行うと共に、5か年計画に基づき順次、学校の照明器具をLED器具に改良するなど、計画的に施設の維持補修に努めていきます。

生涯学習、生涯スポーツ施設についても、新年度は、宮・平沢地区公民館のトイレ改修や宮運動広場トイレ設置工事等を行い、より利用しやすい

施設づくりに取り組んでいきます。

また、生涯学習機会の提供と学習情報の充実を図るため、ふるさと文化会館の自主公演委託料を増額したほか、今まで図書整備基金からの繰入金で賄っていた町立図書館の図書購入費については、基金残高がなくなっても前年度と同額を計上するなど、積極的に生涯学習・生涯スポーツ活動を支援していきます。

## 美しい快適なまちづくり（環境・生活基盤）

～みんなが、誇りを胸に～

次に、美しい快適なまちづくりに向けてであります。

私たちが先人から受け継いできた「蔵王の豊かな自然」は、県内有数の農畜産物を育み、また観光資源として、人々の暮らしを支えてきました。

この豊かで美しい自然環境を、次世代に守り継いでいくことは、私たちの使命であります。

このような考えから、新年度はその基本となる「環境基本計画づくり」に本格的に取り組んでまいります。

また、蔵王のシンボル「お釜」をはじめとする

地質学的遺産について「日本ジオパーク認定」を目指し、学術調査に取り組んでまいります。

地球環境にも配慮した「循環型地域社会」の形成を目指し、「住宅用太陽光発電システム設置事業補助金」も継続していきます。

道路整備では、新年度は、平家川の河川改修に合わせて「城山線」の改良工事に着手します。

また、湯口線については、26年度改良工事着手に向け、詳細設計を実施します。

道路維持補修では、除雪トラック2台を更新するほか、引き続き町道や農道の維持補修工事を行い、安全で快適な道路の維持に努めてまいります。

昨年12月に発生した中央自動車道「<sup>ささご</sup>笹子トンネル天井板崩落事故」をきっかけに、道路や橋梁

の老朽化が、大きな社会問題となっておりますが、わが町では、新年度で橋梁長寿命化計画を策定し、計画的に橋梁の補修工事に取り組んでいくことにしております。

また、長年の懸案となっていた平沢小学校前の「学校前橋」については、改修に向け、県との事前協議資料を作成してまいります。

## 活気あるまちづくり（産業）

～みんなが、元気になる～

次に、活気あるまちづくりに向けてであります。

まず、福島原発事故に伴う放射能問題は、風評も含め、わが町の基幹産業である「農業」と「観光」に深刻な影響をもたらしました。

こうした中、引き続き農産物の安全・安心には万全を期すとともに、あらゆる機会を捉えて、その安全性を訴えていきたいと考えております。

このため、新年度も「放射性セシウム吸収抑制対策事業」を継続して実施するほか、「農産物安全・安心キャンペーン事業費」を計上しました。

更に、農産物等の放射能検査体制も現在の体制

を維持していきます。

また、町の特産品である梨については、去年は広範囲で病害虫による被害が発生したことから、新年度は「果樹病害虫防除対策事業費」を計上し、薬剤等を配布し、一斉防除を実施していきたいと考えております。

農業の6次産業化については、いち早く取り組んできた「蔵王爽清牛」について、協議会への支援を継続し、ブランドの定着化を進めていきたいと考えております。

仙南広域農道は、新年度中に道路本体の工事を完了し、26年度にガードレールなどの施設や案内板を整備して、完了する予定であります。

商業振興では、地域商業の復興支援として、プ

レミアム商品券発行などの事業に補助を行っていきます。

国の雇用創出事業は、平成24年度から東日本大震災の被災県に限定して実施されていますが、新年度は、この事業により、直接雇用31名、町内事業所等への委託雇用14名、合計45名の雇用創出事業を実施していきます。

次に、観光関係では、平成25年4月から6月に実施される「仙台・宮城ディストネーションキャンペーン（DC）」に向け、24年度予算で、観光PRキャラクターやガイドブックなどを制作し、万全の体制で臨むほか、期間中に「仙台真田氏PRイベント」や、3回目となる「日本の蔵王ヒルクライム・エコ2013」などを開催し、誘客に努めていきたいと考えております。



また、日本の森・滝・渚全国協議会の平成25年度総会は、本年8月に本町で開催されることになっておりますので、こうした機会に蔵王町の魅力を全国に発信していきたいと考えております。

共に創るまちづくり (町民参加・安全・行政運営)  
～みんなが、一緒に～

次に、共に創るまちづくりに向けてであります。

まず、防災面については、東日本大震災をきっかけとして、大規模災害への備えを、なお一層充実する必要性を痛感したところであります。

このため、年次計画で町内5地区に災害対策用備蓄資機材を配備することとしており、新年度は遠刈田地区と平沢地区に「防災備蓄倉庫」を設置するほか、24年度に備蓄倉庫を設置した円田地区には、災害対策用備蓄資機材を配備していきます。

また、地域コミュニティの実情に合致した行政区単位等での「自主防災組織」の設立も早急に進

めなければならぬと考えております。

このため、新年度から、自主防災組織支援事業補助金を交付するほか、地域の集会所に、指定避難所太陽光発電システム設置事業費の補助を行い、自主防災組織の育成支援を図っていきます。

財政・税務部門での新規事業では、固定資産評価替えに向け、標準宅地の鑑定評価業務を委託するほか、航空写真データの更新を行い、単に課税資料としてだけでなく、防災・農政・建設・福祉など、各行政分野において、幅広く活用していきたいと考えております。

開かれた町政運営のための情報公開につきましては、昨年の後期基本計画策定のため、町民の皆様からご意見を頂戴したところ、子育て世代の方から、町のホームページが分かりにくいという

ご指摘をいただきましたので、昨年12月から若手職員によるワーキンググループで「利用者目線に立ったホームページ」にするための見直しを行い、順次改訂を行っているところであります。

以上、平成25年度を迎えるにあたりまして、私は覚悟をもって決断し、町政運営に取り組んで参りたいと考えております。

どうか、町民の皆様並びに議会の皆様のより一層のご理解・ご協力そしてご支援を心からお願い申し上げます、平成25年度の施政方針といたします。